

第32回



いのちを守る

発行：第32回日本高齢者大会in熱海 中央実行委員会
東京都中野区中央5-48-5-504
電話・FAX：03-3384-6654
発行責任者：武市 和彦

第32回日本高齢者大会開かる！



第32回日本高齢者大会へようこそ！ 熱海から高齢期運動を広げよう！

2年ぶりの大会です 参加者のみなさん

おひさしぶり ようこそ熱海へ！

第32回日本高齢者大会in熱海実行委員会

事務局長 武市和彦

昨年沖縄大会は季節外れの台風襲来で残念ながら中止となってしまいました。大会開催は2年ぶりの開催となります。今大会は沖縄大会の内容と精神を引き継ぐものとして開催されます。本大会の開催意義と目的は、まず第一に「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」のスローガンを実践し、国の責任を投げ捨てた社会保障改善をやめさせ、充実を求める

運動を強化し、高齢者の要求を結集してゆく場とすること。第二に、憲法、9条改悪阻止、沖縄の新基地建設反対憲法が輝く平和な未来へ高齢者の意志を結集し、国民的な運動の一翼を担う場とすること。

第三に高齢者の運動を交流しながら、高齢期運動の共同を広げ、全国で地域連絡会づくりをすすめる力とすることの3点です。

会場と宿泊が同じ場所である高齢者大会の参加者だけの貸切となっておりますので、時間を気にせず夜の企画などにも参加できます。また大いに学び交流していただき、充実した二日間をお過ごしください。

地元静岡、神奈川、東京のみなさんが要員として大会を支えてくれています。ありがとうございます。

参加のしおり 訂正とお詫び

第32回日本高齢者大会in熱海の「参加のしおり」に以下の間違いがありました。

18ページ 第7教室前半
福島の今 原発の今

講師名 伊藤 真
は誤り 伊東達也 が正です。

大変申し訳ありませんでした。くれぐれもお詫びいたします。

42ページ 千葉民主医療機関連合会 の左側のマークは削除お願いします。大変申し訳ございません。

ご迷惑をおかけしたことをくれぐれもお詫びいたします。

静岡県立熱海高校エイサー部紹介

エイサーは旧暦の7月15日にあたる旧盆の夜、各家の無病息災、家内安全、繁盛を祈り祖先の霊を供養する沖縄の伝統行事です。下界に降りて来た先祖の霊を再びあの世へと送りだすため、太鼓の音で脅かすとされます。静岡県立熱海高校のエイサー部は創立10年以上。観客数100万人を超える新宿エイサーまつりにも毎年出演。施設慰問やイベント参加など、熱海市内と県外を含め40を超える回数の演舞を披露。



熱海の由来

熱海の観光おすすめスポット 起雲閣の歴史



奈良時代、箱根の万巻上人が、海中に沸く熱湯によって魚類が焼け死に、甚大な被害を被っていた漁民たちの訴えを聞き、祈願によつて泉脈を海中から山里へ移し、「この前にお社を建てて拜めば、現世も病を治す、来世も幸せに暮らせる」と人々に説いたと伝承されています。この源泉が現在の大湯であり、そのお社は薬師如来と少彦名神をお祀りしてこの地の守り神とした、湯前権現(現在の湯前神社)であるといわれています。

今回の会場の一つである「起雲閣」は1919年(大正8年)に建てられ、もともとは実業家や政治家たちの別荘として使われていましたが、何度か所有者が変わり、一時期は旅館として営業もしていました。今では貴重なガラス板を使った天井からの採光が美しく、和風の建築に暖炉やローマ風呂などを組み合わせたモダンな雰囲気。映画やドラマのロケのスポットとして、最近ではNHKの連続テレビ小説「花子とアン」の撮影が行われました。



熱海観光おすすめスポット

紅葉見学なら 熱海梅園「 のみじまつり」

日本一早咲きの梅で知られる熱海梅園は、実は紅葉スポットでもあります。

園内にはカエデ類が380本あり、温暖な気候のせいか、毎年11月下旬から12月にかけて色づくため「日本一遅い紅葉」とも言われています。

もみじまつり期間中は、毎年恒例の足湯開設、熱海梅園もみじまつりフォトコンテスト、もみじライトアップ」等を実施します。

■JR熱海駅よりJR伊東線にて約3分(1駅)→JR来宮駅下車

徒歩10分 入園無料

静岡県熱海市梅園町8-11

また、「熱海」と書いて、「あたみ」と読むこの地名の由来は、海中より温泉が湧きまじく沸きあがり、海水がごとごとく熱湯となったため、「あつうみが崎」と呼ばれ、それが変じて「あたみ」と称されるようになったと言われています。

事務局からのご連絡



①全体会終了後の退室順

- (1)大野屋の宿泊者＝東京・大阪・愛知・香川は先に出発します。27人乗りホテルバス3台ピストン運転します。歩きもお願いします。徒歩10分。案内要員配置。
- (2)ニューフジヤ本館宿泊者 下記以外
- (3)ニューフジヤアネックス館(新館)宿泊者 神奈川・新潟・山形・静岡

②本日(25日)大野屋宿泊者対象のニューフジヤでの「夜の企画」参加者へのホテルバス運行します

19時15分より 大野屋からニューフジヤ
終了後 21時15分より ニューフジヤから大野屋
ただし 台数に限りがありますので、申し訳ございませんが徒歩での移動(約10分)もお願いします。

③26日(月)朝のバス運行・ホテル外の移動分科会について

8時10分～8時半 ニューフジヤ・大野屋間 27人乗りホテルバス3台ピストン運行。歩きもお願いします。
ホテル以外の講座分科会会場は徒歩移動をお願いします

資料袋同封地図参照・案内要員配置

起雲閣はニューフジヤ・大野屋から徒歩5分(入口は裏側)
総合福祉センター・中央公民館はニューフジヤから徒歩3分
大野屋から徒歩10分(ニューフジヤまでのバス利用を推奨)



熱海温泉湯場之圖

全体会の
オープニング曲

もっと知りたい

沖繩



芭蕉布「に」められ

た思

歌曲「芭蕉布」は、1965年7月2日に、ハワイ生まれで沖繩系三世のアメリカ人歌手、クララ新川の演唱により発表された楽曲です。

普久原恒勇が新しい沖繩の楽曲づくりで情熱を傾けて、西洋音楽でも既存の沖繩民謡でもない新しい沖繩サウンドを作り出しました。

歌詞は、沖繩で中学校教師をしていた吉川安一が沖繩口で作成しました。

吉川はこの詞について、母が芭蕉布を織っていたが、その幼いころの記憶を縦糸に、亜熱帯海洋性の温暖な自然の美や独自の言語、文化を横糸にして織りなし、特に地域を限定しないふるさと沖繩賛歌として書いた。」と語っています。

また、海の青さ、空の青さには、温暖な気候や自然の美、自分の母だけでなく沖繩の女性の明るさや優しさを象徴させる」とともに「平和の色彩」のシンボルにしたとも述べています。

夜の企画のご紹介

DKINAWA1965

17年制作/上映時間95分

1965年、米軍占領下の沖繩。本土復帰を求める祖国復帰行進のさなか、報道写真家の嬉野京子さんによつて1枚の写真が撮られた。幼い少女が無残にも米軍のトラックに轢殺された、当時の沖繩の縮図といえる写真だった。本作は沖繩のガンジーと阿波根昌鴻をはじめ、沖繩の祖国復帰運動や基地問題をさまざまな証言で浮き彫りにする。特にヴェトナム戦争で多くの人を殺したと告白する元海兵隊員が、沖繩で非暴力に目覚めていったエピソードは心に残る。辺野古の新基地建設断念とすべての米軍基地の廃止、そして平和な未来への願い：沖繩の戦後はまだ終わっていない。

■25日(日)19時30分より

ニユーフジヤホテル3階コーラルにて



〜全体会を盛り上げます〜 司会のご紹介

東京保健生活協同組合
事務局組織部
山口弘樹さん

こんにちは、第32回高齢者大会全大会の司会を務めさせて頂きます東京保健生活協同組合の山口弘樹と申します。30歳の2児(両方とも男の子)の父です。休日は子どもと一緒に特撮ヒーロー番組を見たり、公園でサッカーをしたりするのを楽しみます。初めて参加した高齢者大会は2年前の東京大会で、その時は青いTシャツを着て会場誘導をしていました。緊張すると早口になつてしまい、聞きづらいつとろがあるかもしれません。精一杯、司会を務めさせて頂きますので、みなさま、暖かく見守ってください。よろしくお願ひします。

全日本年金者組合
東京都本部 府中支部
佐藤祐子さん

20年前に年金者組合に加入し、以来年金女性部で主に活動してきました。日本高齢者大会に初めて参加したのは、第19回の神戸大会で、女性部が主催し18名で参加しました。2回目は第29回和歌山大会で、これも女性部が主催し、10名で参加しました。今回が3回目の参加になります。

この間に私も立派な高齢者となり、最近では年金者組合の活動がメインになつて来ました。これからも学習と皆さんとの連帯を力に、楽しく、高齢期運動に取り組んで行きたいと思つていきます。

熱海の観光おすすめ
スポット
循環バス「湯々遊バス」
のごあんない

熱海の観光スポットをぐるりと巡るなら「湯々遊バス」がおすすすめ。1日13便(土日祝は18便)、バス停16か所、約40分で市街地を周遊できます。観光施設での割引もありお得感満載です。フリーきつぷを購入すれば、1日に何度でも乗り降りできます。車中では、地元のボランティアガイドさんが熱海を案内してくれます。約30分に一本の間隔です。最終便は午後4時ごろ

- 一回利用250円
- フリー切符750円





●充実の分科会をご紹介します●

第2分科会

老人医療無料化をすすめるために
「日本一の福祉の町づくり」をすすめる日
の出町からの報告

東京都日の出町町議 折田 眞知子 氏

日の出町は東京の西のはずれにある、人口が170000人に満たない町です。少子化と高齢化が課題となり、その対策に足を踏み出し結果を示したといえます。

町は、平成18年下水事業が終了し、インフラ整備はほぼ終了したとして、子育て支援の充実と高齢者に優しい日本一の町づくりを掲げました。

宣言の内容は、75歳以上の医療費の無料化。75歳になられたときの人間ドックの無料化。健康教室や各種スポーツへの支援をすること、健康管理・健康増進を図りますというものです。高齢者の足の確保など、具体的な施策と財源についてもお話を伺います。

第3教室前半・後半

憲法にもとづく社会保障と日本経済の再生
「アベ改憲政治の思想と背景」

神戸大学名誉教授 二宮厚美 氏

講座前半では、憲法の生存権を担う社会保障の意義が語られます。社会保障の柱として①労働権・雇用保障、②教育保障、③最低所得保障、④保育・福祉・医療等の社会サービス保障、⑤住宅・環境保障の5つです。

講座後半は、アベノミクスその他の「アベ政治」暴走の状況と新自由主義・ブルジョア歴史修正主義の思想について、21世紀の現代からみれば、文字通り歴史反動的な「バックラッシュ」なイデオロギーであり、戦後日本に根づいた憲法と民主主義の思想からみれば、時代錯誤的なものにすぎないということ、さらに、一方での新自由主義と他方での歴史修正主義は論理的には互いに矛盾することが、明らかにになります。

第6教室

明治150年をどう見るかー明治礼賛史観を糾すー

明治大学教授 山田朗 氏

現在、明治150年「明治の精神に学ぶ」というスローガンのもとに、明治礼賛一色に染めようとする動きが強まっています。明治礼賛論の典型事例として2015年に出された安倍談話をとりあげ、中国との戦争に対する無視と、日露戦争に対する高評価を検討します。

後半では、日本社会全体として「戦争の記憶」の希薄化が進んでいる現状にふれ、希薄化の背景にある「戦争の記憶」の継承のされ方、記憶の私的継承の断絶という問題を考えます。本報告では、日本の戦争の実相、兵士たちの悲劇を集中的にあらわしている中国戦線・特攻作戦・沖繩戦に焦点をあて、近代日本の膨張・軍拡政策の帰結としての戦争と、その矛盾の現れとしての戦闘の特徴を明らかにします。

第7分科会

東京に、わがまちに高齢者は木を植えよう！
国際生態学センター所長 鈴木邦雄先生(前横
浜国立大学学長)

報告1 シンポジウム実行委員会 事務局長
吉岡尚志 氏

報告2 株式会社 研進(障害者就業支援団体)
代表取締役 出縄貴史 氏

異常気象、自然災害などが続いています。防ぐために抜本的な手立てを打たなければ人類の危機です。わがまちに木を植え、森をつくること、有効な防止策です。なぜ、どう東京などの都市に木を植えるかについて、そして高齢者のとりくみの意義と可能性について報告を受け、活動を交流し、意見交換を行います。

世界で最も危険なまち・東京23区に木を植えることは困難ですが、やらなければならないことは明白です。最近東京の世田谷区で進んでいるプロジェクトをご紹介します。

～おしらせ

中央団体と地域連絡会代表者による活動推進交流集会
を行います

日時 11月25日(土) 19時30分～20時30分 会場 ニューフジヤホテル 1F喫茶コーナー
参加者 各県代表者 中央団体責任者
内容

1.75歳以上の医療費負担の原則2割化に反対する請願署名の取り組みについて
2.各県取り組み状況交流

